

【モスクワ29日＝斎藤勉】ロシアと中国の軍事提携が強化される中で、外交関係のないロシアと台湾の関係が静かに進展、モスクワでは、台湾海峡の安全保障と台湾総統選をテーマとした初めての政治的シンポジウムが開かれた。プーチン政権は中国当局との合意で、「台湾の独立は認めない」など台湾問題に関して「四つのニエット（ノー）」原則を堅持している。しかし、ロシアの有力な中国・台湾問題専門家の間では、中国は独裁体制から民主主義への移行を成功させた台湾に学ぶべきだ—として中国に政治的民主化を促す機運が広がっており、シンポジウムでは中国と台湾の現在の関係を「一国、分離主権」とする新たな見解を示す専門家も現れ注目された。

■ ■ ■

モスクワには七年前に台湾当

## 露台関係 静かに進展

局の出先機関である「台北モスクワ経済文化協調委員会・駐モスクワ代表処」が設置され、「政治」抜きで交流が開始された。今では政務担当官も配置され、十九日には陳水扁・新総統の正式就任を祝うレセプションがモスクワの米国系ホテルで開かれた。六百人に招待状が発送

シアに精通した日本の大物専門家を台北に招き、台湾の対露影響力の拡大を目指す戦略を相談していたとの情報もある。

「台湾総統選と極東地域の安全保障」と題するシンポジウムは、陳新総統就任レセプションに先立ち、モスクワ大学付属アジア・アフリカ諸国大学（IAAS）で開かれた。出席したの

この中でIAASのメリクセリ、民主化、人権、自由を求めトフ教授は「アジア諸国がいかに独裁主義から民主主義への合法的移行を果たし、五・四運動（一九一九年に北京で起きた反帝主義運動）の伝統を継承していくかの解答を探るために、台湾で起きている政治的プロセスを学習する緊急性」を強調した。

ロシア有数の中国研究者、デリユーシン氏は「台湾の政治的民主化は大陸の機運に影響を与え、なぜ台湾の住民に民主化への移行ができて、われわれにはできないのか、という問題が提起されている。大陸の多くの進歩的中国人にとって、台湾人が学ばべきだ」とのスローガンに大きな緊急性を持ち始めてお

## 台湾の民主化「中国は学べ」

「中国は学べ」としての台湾の優越性を喚起した。

こうした論議に関連して極東研究所のガレノービッチ教授は「民進党が初めて国民党を破った。今回の総統選の結果は、二十世紀の中国内部の数十年にわたる政治闘争が台湾に影響を

与える時代が終わったことを意味している」との見方を示し、歴史学博士のボガトウロフ氏は「台湾海峡兩岸の現実から見て、一つの国だが、主権は分離している」といえるのではないかと指摘した。

プーチン政権は①台湾の独立②「二つの中国」あるいは「一つの中国、一つの台湾」③台湾の国連など国際機関加盟④台湾への武器供与の四点を拒否する原則に立ち、「台湾」は中国の内政問題との立場を貫いている。しかし、出席者の一人、IAASのコズイレフ教授は「会議での発言はなかったが、ロシアの研究者は、台湾はもはや中国ではなく、中国の台湾に対する主権と、一国二制度は機能していないとみなしている」と指摘。「台湾の国連加盟」支持を示唆する発言もあったことを明らかにした。

## 「主権分離」見解も

初シ

Handwritten notes: 初シ, Aof